1号様式（第6条関係）

[redacted]

伊勢原市協働事業提案書

伊勢原市 1.6.25 受付 第39号

2019年（令和元年）6月25日

伊勢原市長　殿

住　所　伊勢原市下糟屋143東海大学健康科学部社会福祉学科気付
団体名　はだの子ども支援プロジェクト「ゆう」
代表者氏名　妻鹿　ふみ子 [redacted]

伊勢原市市民協働事業提案制度実施要綱第6条の規定により、次のとおり提案します。

提案区分	☑ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
協働事業名	外国につながる児童生徒及びその家族の学習支援事業 （伊勢原サンシャイン教室）
添付資料	(1) 団体概要（第2号様式） (2) 協働事業実施計画書（第3号様式） (3) 協働事業収支予算書（第4号様式） (4) 規則、定款、規約、会則その他これに準ずるものの写し (5) 会員、構成員の名簿の写し (6) 前年度の活動報告書及び収支決算書の写し

第２号様式（第６条関係）

団　体　概　要

2019 年 6 月 25 日現在

団　体　名	はだの子ども支援プロジェクト「ゆう」	
所　在　地	〒259-1193 伊勢原市下糟屋 143 東海大学健康科学部社会福祉学科気付	
代　表　者	妻鹿　ふみ子	
設立年月	2016年7月	
会員の状況	会員16人（うち伊勢原市在住・在学・在勤者５人） 市民サポーター8人 学生サポーター51人（東海大学在学）学生につき、流動的。 計75人（うち伊勢原市在住・在学・在勤者５６人）	
業務内容	伊勢原市・秦野市及びその周辺の市町に在住する子どもとその家庭の生活課題に寄り添う活動の展開を行う。中心的な活動としては、外国につながる子ども等の困り感に対応する学習支援の機会の提供と、支援人材を学校等への派遣のコーディネート、及び支援者の資質向上の機会の提供を行っている。	
主な公益活動の実績	１、放課後学習支援教室（伊勢原市内：1か所、秦野市内：3か所） ２、学校同行支援（小学校：秦野市内3校、中井町1校）（高校：ME-net 事業への協力として伊勢原高校含む3校） ３、大人対象の日本語教室 ４、小中学校福祉授業協力（秦野市社会福祉協議会の依頼） ５、支援者（大人の支援ボランティア及び大学生）学習会 ６、シンポジウムの開催	
連絡担当者	氏名	三田村　晴美（事務局長）
	所属	はだの子ども支援プロジェクト「ゆう」
	電話	[redacted]
	FAX	なし
	e-mail	[redacted]

第３号様式（第６条関係）

協働事業実施計画書

協働事業名	外国につながる児童・生徒等の学習支援事業 （伊勢原サンシャイン教室）
事業の目的	伊勢原市内に在住・通学する外国につながる児童・生徒等が、今後伊勢原市とその近隣の地域社会において、自立した市民として生活し、日本人である市民とともに、よりよい地域社会を構築していくための基盤づくりを支援する。また、その保護者が、多文化共生社会実現の先取りとして、伊勢原市において、それぞれの文化的背景を有意義に活かしていける環境をつくる。
事業内容	1　伊勢原市在住・通学の外国につながる児童生徒の学習支援。 放課後支援（学習支援及び居場所づくりの活動）（現在は、伊勢原北コミュニティーセンターで実施） 2. 同上の外国につながる子どもたちの放課後の居場所提供。 3. 同上の外国につながる子どもたちの成長への寄り添い。 ① 子どもからの相談対応（定期的な学習支援の場で） ② 保護者からの相談対応（定期的な学習支援の場で。別の場所・機会を提供する可能性あり） 4. 支援する力を持つ地域人材を見出し、養成する。
スケジュール	1. 年間を通じ、週１-2回程度（定期的に）学習支援教室を開催する。 2. 年に2回程度、多文化共生に関するシンポジウムやセミナー活動を行う。 3. 年度後半、支援者養成のための短期養成研修プログラムを実施する。
協働の効果	協働事業として本事業を実施することにより、今後ますますの増加が見込まれる伊勢原市在住、通学、通勤の外国つながりの子どもとその家庭に対し、学習支援や生活課題への寄り添い活動を行う本団体の事業についての情報をより広範囲にかつ安心感と共に届けることができる。また、本団体には、外国つながりの児童・生徒への支援についての高い専門性や経験を有する会員がいることから、彼らの持つ生活課題やニーズをより的確に把握して行政と役割分担しつつ、対応することができる。
役割分担	（市民活動団体の役割） １）定期的な学習支援や居場所づくり事業の企画及び実施　2)学習支援人材の配置及び派遣　3)市民啓発・支援者養成のためのシンポジウムや研修等の企画及び実施　4)教育委員会や関係機関との連絡調整　5)事業経費の負担 （市の役割） 1)学習支援・居場所づくり事業の拠点確保　2)本事業の対象者、関係者、関係機関への広報・周知　3)団体への助言・協力

第４号様式（第６条関係）

協働事業収支予算書

協働事業名	外国につながる児童・生徒等の学習支援事業 （伊勢原サンシャイン教室）
団　体　名	はだの子ども支援プロジェクト「ゆう」

収入の部

区　分	見　積　額（円）	積算根拠（数量、単価等）
事業者負担	10000	はだの子ども支援プロジェクト「ゆう」2019年度事業予算書参照
収入合計額	10000	

支出の部

区　分	見　積　額（円）	積算根拠（数量、単価等）
印刷代	2000	チラシ、申込書などコピー　@10円×200
教材費	3000	教科書　@300円×10
消耗品費	3000	ホワイトボード、マーカー、折り紙、画用紙など
保健衛生費	2000	消毒薬ばんそうこう等救急箱内容物
支出合計額	10000	

外国につながる児童生徒及びその家族の学習支援事業
伊勢原サンシャイン教室に関する協働事業協定書

伊勢原市（以下「市」といいます。）と「はだの子ども支援プロジェクト「ゆう」」（以下「市民活動団体」といいます。）は、『外国につながる児童生徒及びその家族の学習支援事業』（以下「事業」といいます。）に関し、次のとおり協働事業の協定を締結します。

1　事業の目的

伊勢原市内に在住及び通学する外国につながる児童・生徒等が自立した市民として生活して、よりよい地域社会を構築していくための基盤づくりを支援するとともに、その保護者が多文化共生社会実現の先取りとして、それぞれの文化的背景を有意義に生かしていける環境をつくることを目的とします。

2　協定の目的

本協定は、事業の実施に当たり、市と市民活動団体との間の関係や役割分担、相互協力の内容等を定めるものです。

3　協働に関する原則

市と市民活動団体とは、協働の精神に基づいて、お互いに次の原則を遵守します。

(1) お互いが対等かつ協力的な関係を保つよう心がけます。
(2) お互いの立場を理解・尊重し、自由に意見を交換できる関係をつくります。
(3) お互いの活動を理解し、その主体性・自主性を尊重します。
(4) 個人情報の保護に考慮しながら、協働の過程や結果等の情報を公開し、市民の理解を得るように努めます。
(5) 多様な市民の意見を集め、中立性・公平性を担保します。
(6) 一定の時期に事業の効果を検証・評価し、改善を行うとともに、事業の継続の可否についても検討します。

4　役割と責務

(1) 市の役割と責務

ア　情報提供

市は、市民活動団体に対し事業の実施に必要な情報の収集、提供及び公開をします。

イ　分担業務

i　事業の実施にあたり、会場となる伊勢原北コミュニティセンターの使用料を減免します。
ii　必要に応じて、広報や市ホームページ、チラシの配架など、事業の周知に協力します。
iii　本事業実施にあたり、助言等を行います。

ウ　報告書に関すること

市は、市民活動団体が作成した報告書の内容を検討し、市政に反映することができるよう努めます

(2) 市民活動団体の役割と責務

ア　情報提供

市民活動団体は、市に対して、事業の実施に必要な情報の収集、提供及び公開をします。

イ　分担業務

i　事業の目的を達成するため、定期的な事業を企画し実施します。
ii　事業の目的を達成するため、学習支援人材の配置及び派遣を行います。
iii　市民啓発・支援者養成のために、多文化共生に関するシンポジウムや、研修プログラム等を企画し、実施します。
iv　事業に係る関係機関などとの連絡調整を行います。
v　事業に掛かる費用を負担します。
vi　その他、事業実施に関する全てを行います。

ウ　情報公開

市民活動団体は、事業実施の経過・内容・成果等について、より多くの市民の目に触れるように広く一般に情報公開や情報提供をします。

エ　個人情報の保護

市民活動団体は、事業を実施する上で知り得た情報のうち、個人情報に関するものについては、市の個人情報保護条例に基づいて個人情報の保護を行います。

5　相互の連絡調整

市と市民活動団体は、相互の連絡調整を円滑に行うため、適宜、連絡調整会議等を開催して協議します。

6　協定の有効期限

本協定の有効期限は、令和２年３月３１日までとします。

7　事業の評価等

市民活動団体と市とは、事業の実施後に事業の評価を行います。

8　その他

本協定に定めのない事項で、事業を実施する上で必要と認められるものについては、市民活動団体と市とが協議して定めるものとします。

この協定の締結を証するため、本書２通を作成し、市、市民活動団体は、それぞれ記名押印の上、各自その１通を保有するものとします。

令和元年　6　月　28　日

（市）　伊勢原市田中３４８番地
伊勢原市長　髙　山　松太郎 [redacted]

（市民活動団体）　伊勢原市下糟屋１４３
東海大学健康科学部社会福祉学科気付
はだの子ども支援プロジェクト「ゆう」
代表　妻鹿　ふみ子 [redacted]